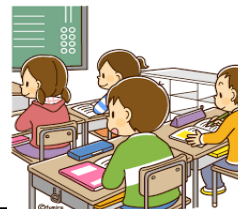


## 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果 京都市立嵐山東小学校

4月17日に本校6年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・算数・理科の3教科のテスト及び家庭での過ごし方や学習時間などを問う調査が実施されています。生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。



### 総合結果（国語・算数・理科）

国語A（主として知識）、国語B（主として活用）、算数A（主として知識）、算数B（主として活用）、理科の全ての教科で全国平均を上回りました。

無回答率は、国語・算数・理科ともに、全国平均より低い結果でした。問題と向き合い、最後まで粘り強く取り組むことができています。

### 国語科より

国語A（主として知識）の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全てにおいて、全国平均を上回りました。主語と述語の関係に関する問題の正答率は全国と同様に低くなっていました。

国語B（主として活用）の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全てにおいて全国平均を上回りました。「目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書く」問題では正答率の割合が21.7%と他の問題と比べると低い結果となりました。

### 算数科より

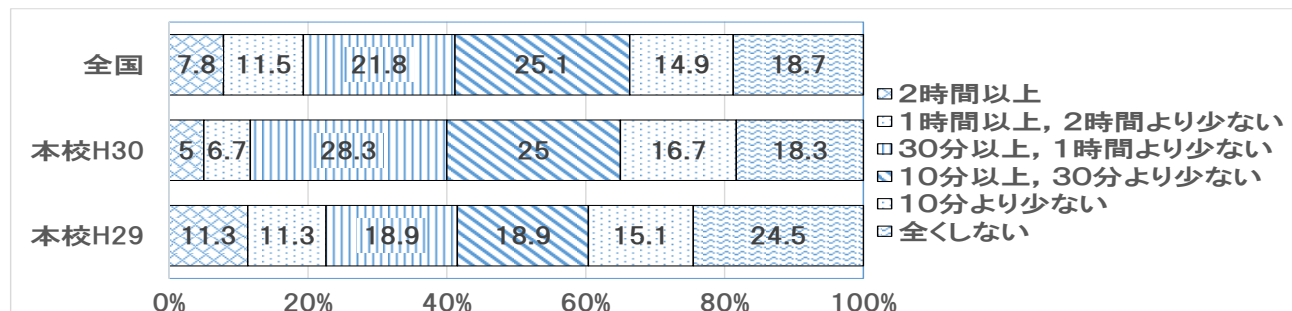
算数A（主として知識）の「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」全ての問題で、全国平均を上回りました。図形に関する問題では正答率の割合が低くなっていました。算数B（主として活用）の問題は、全ての領域で全国平均を上回りました。問題形式でみると、「記述式」は10問中5問あり、5問全て全国平均を上回りました。数量関係に関する問題では正答率の割合が低くなっていました。小数の除法についての理解や、グラフから読み取った情報を適切にまとめることに課題が見られました。

### 理科より

理科の「物質」「エネルギー」「生命」「地球」のどの区分の問題でも全国平均を上回っていました。「目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の一日の変化に合わせた箱の中の適切な位置や方向を選ぶ」問題、「ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ」問題では正答率が全国平均を下回りました。得られる結果を見通して実験を構想したり、「ものづくり」を通して学んだことを活用して問題解決をしたりすることに課題が見られました。

## 児童質問紙より①

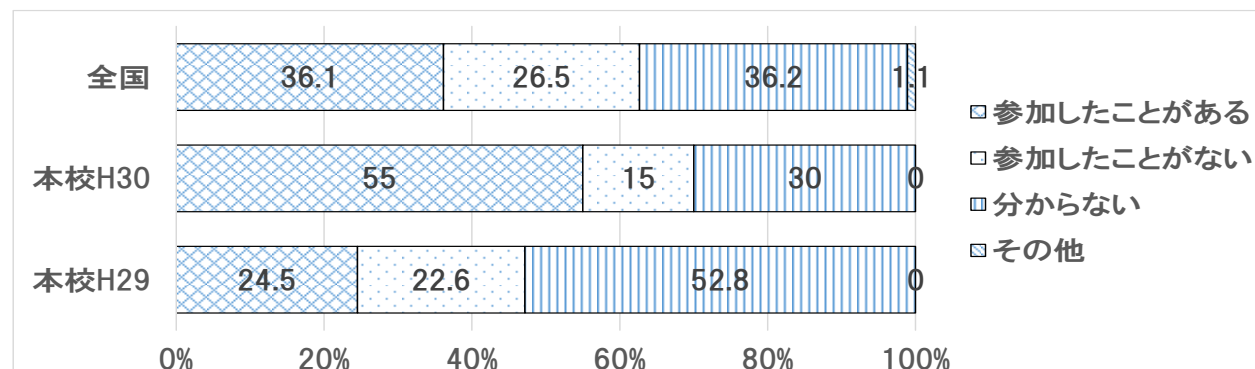
Q：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間読書をするか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



「2時間以上」との回答は昨年度より 6.3 ポイント低く、全国平均よりも 2.8 ポイント下回りました。「1時間以上、2時間より少ない」との回答も全国より 4.8 ポイント下回っていました。休み時間等に図書室を計画的に活用し、読書習慣を身につけるように取り組んでいきたいと思ひます。

## 児童質問紙より②

Q：地域社会などでボランティアなどに参加したことがありますか



「参加したことがある」との回答は全国平均を 18.9 ポイント上回り、昨年度よりも 30.5 ポイント上がりました。「人の役に立つ人間になりたいと思ひますか」の質問でも 90%の児童が「当てはまる」と回答していました。地域の人をはじめ、様々な人と交流する体験活動がこの結果に結び付いていると考えます。今後も児童一人一人が社会に貢献する活動に取り組む中で、「他人を思いやる心」「感謝する心」を育てていきたいと思ひます。

## 保護者の皆様へ

全国調査は、子ども達の学習状況を知り、子ども達の可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が、学力のすべてを表しているものではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると、これまでの調査結果と比べて確実に伸びてきている部分があり、ご家庭での子ども達に対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き、子ども達の健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。